

## 第12回 MBI(マルチメディアを基礎にした教育)発表会プログラム

日 時：平成22年2月17日(水) 13:00~17:00

場 所：フロネシス講義室1(8111)

司 会：石井 文由(13:00~14:30)・和田 義親(14:50~15:50)

※ 1演題20分 発表時間15分 質疑5分(入換時間含む)

13:00~13:10

開会の辞：久保 陽徳 学長

1. 13:10~13:30

テーマ：**英語の授業におけるICT活用例：「英語ライティング」の場合**

林 弘美(英語・英語学)

要 旨：発表者が担当する授業のひとつに「英語ライティング」という科目があり、テキストによる演習に加え、毎学期英文エッセイの作成を指導している。英文によるエッセイ作成という個々の学生の意見と英語力が反映される課題において、ICTを活用することにより効率化できるところときめ細かい指導の必要などを見極め、授業の活性化・指導の向上を模索している現状を報告する。

2. 13:30~13:50

テーマ：**学習者の受講態度から見る授業評価**

和田 義親(薬学教育研究センター)

要 旨：100名を超える大講義室での授業を展開する場合、教授者は学習者を講義内容に集中させることが必要である。2009年度後期の基礎物理学の授業を2クラス担当し、メディアの使い方を少し変えて実施した。講義終了毎に講義内容を習得しているかを問う設問と受講態度を問う設問のウェブアンケートを行った。アンケートを解析し、学生が講義内容の目標認識の度合、新しい概念習得の意識の度合、授業への集中度から、授業の自己評価を試みた。

3. 13:50~14:10

テーマ：**授業科目別ホームページの作成と運用：授業コンプレックス(メタ授業)の創造**

石橋 賢一(病態生理学)

要 旨：昨年行った100近くの臨床系講義ビデオとプリントが科目別ホームページにアップされている。それから臓器単位で統合したメタ講義を作成した。たとえば循環器関連の講義コンプレックスがリンクで容易に作成できる。また学力別モデル学習コースを複数用意した。いわば講義コンテンツの再生利用だが、教員にも系統的に講義をふりかえることで、講義のかたよりや弱点を見つけることが可能になるメリットがありFDにもなる。

4. 14:10~14:30

テーマ：**薬学教育におけるドッキングシミュレーションソフトの活用**

○植沢 芳広(臨床薬剤学教室)、東 恭一郎(生化学教室)、  
古源 寛(医薬分子設計学教室)

要 旨：一般に、薬物、ホルモン、栄養素といった低分子化合物の生理作用の発現過程には、酵素等の生体高分子との相互作用が介在する。この、低分子・生体高分子間相互作用における複合体の安定構造をコンピューター上で計算的に推定する手法がドッキングシミュレーションである。ドッキングを実施するためには低分子側、高分子側およびその相互作用に関する様々な知識が要求されるため、学生教育への導入の敷居は決して低いとは言えない。しかし、この手法は創薬過程で重視されるばかりでなく、薬効発現機序の理解にも寄与し得る。本発表では、無料で導入可能なドッキングプログラムによるシミュレーション実施例を通して、薬学教育への導入の可能性を検討する予定である。

<<休憩 14:30~14:50>>

5. 14:50～15:10

テーマ：**薬学共用試験 CBT (Computer Based Testing) を目指した教材**

○向日 良夫 (薬学教育研究センター)、北原嘉泰、池田玲子、阿刀田英子、石橋賢一、  
上村 尚、高村 彰、菱沼 滋、大野恵子、佐野和美

要 旨：一ヶ月以上の特別な準備学習をしなくても正答率 70~80%となるような「知識および問題解決能力を評価する客観試験」である CBT 対策として本学では、過去 5 年分 (90~94 回) の薬剤師国家試験過去問の各選択肢を簡単な解説を付けた○×問題とし、紙ベースおよび PC 利用のサイバーキャンパスに教材として学生に提供した。CBT のゾーン 1~3 別平均正答率などを考慮し、体系的な教材作成について提案する。

6. 15:10～15:30

テーマ：**実務実習支援システムの必要性と課題**

石橋 芳雄 (免疫生物学)

要 旨：6年制薬学教育の柱となる長期実務実習においては、大学と実習施設間で密接な連携を図ることが重要となる。実習生は個別の学外施設で長期にわたって研修するという性格上、担当教員の対面訪問だけでは限界があり、ITを利用した実務実習支援システムの構築が必要不可欠となる。今回は地域医療コースを中心に実務実習支援システムを構築する上で検討すべき課題・問題点について説明する。

7. 15:30～15:50

テーマ：**E-ラーニングを利用した薬剤師生涯学習の開始に向けて**

日野 文男 (薬学教育研究センター)

要 旨：明治薬科大学は、2007 年 3 月薬剤師認定制度認証機構より「生涯研修プロバイダー」としての認証 (G06) を受け、医療人としての薬剤師の能力育成の支援を行ってきました。本学の認定薬剤師研修制度が認証された当時 7 機関であった「生涯研修プロバイダー」も年々増え、現在 12 機関となりました。このことは、薬剤師の生涯学習の必要性と生涯学習への期待の高まりと考えられます。しかし、「生涯研修プロバイダー」は関東、関西に偏在しており、この地域以外の薬剤師にとって生涯学習は希薄なものになっています。本学が認証機構に『認証』申請する際、明薬サイバーキャンパスを通して E-ラーニングによる生涯学習を計画中であったしましたが、セキュリティ等の問題で頓挫していました。幸にも、今年度の帝塚山大学を中心とした戦略 GP が文部省に採択され、この中で本学は生涯学習に取り組むことになりました。これに基づき、本 MBI 研究会では、生涯学習の現状、E-ラーニングの準備状況と今後について報告させていただきます。

15:50～16:00

講 評：阿刀田 英子